

國學院大學學術情報リポジトリ

デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平藤, 喜久子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000536

「デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の国際的研究と発信」

プロジェクト責任者 平藤 喜久子

1. プロジェクトの概要

本プロジェクトは、平成25年度から27年度まで実施された「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」の後継的な位置づけのプロジェクトとして平成28年度にスタートしたものである。

これまでは、プロジェクトを中心に研究開発推進機構全体で構築してきた「國學院大學 デジタル・ミュージアム」(<http://k-amc.kokugakuin.ac.jp/DM/>)の運営、またデジタル・ミュージアムを通して発信するプロジェクト独自のコンテンツの拡充を手がけてきた。

本プロジェクトでは、これらに宗教文化教育の教材研究についての国際的な展開を加え、事業を遂行していくこととした。教材研究に当たっては、「宗教文化士」資格の認定制度の運営を担う「宗教文化教育推進センター」(CERC、サーク)との緊密な連携を取りながら進められた。

2018年度は、宗教文化教育推進センターのほかにも上智大学モニュメンタニッポニカ、2018年度に採択された科研費・基盤研究(B)(一般)「日本宗教教育の国際的プラットフォーム構築のための総合的研究」(研究代表者・平藤喜久子 18H00615)などと連携を進めた。さらに古事記学センターとの連携も深め、ハーバード大学ライシャワー日本研究所との共催ワークショップも実施した。

古事記学センターとは古事記の英訳の作成の面でも協力関係を築いている。

2018年度の本プロジェクトメンバーは次の通りであった。

[専任教員]: 平藤喜久子、星野靖二、齋藤公太、吉永博彰

[兼任教員]: 黒崎浩行、藤澤 紫、ハイヴンズ・ノルマン

[客員研究員]: 加藤久子、フレーレ・チャールズ

[ポスドク研究員]: 今井信治、村上 晶

[研究補助員]: 小高絢子、高田 彩

[客員教授]: 井上順孝、櫻井義秀、土屋 博、ナカイ・ケイト、山中 弘

[共同研究員]: 鈴木聡子、天田顕徳、李 和珍、ガイタニディス・ヤニス、カドー・イヴ、塚田穂高、野口生也、ビュテル・ジャン＝ミシェル、牧野元紀、矢崎早枝子

2. 2018年度の成果

(1) デジタル・ミュージアムの運営

デジタル・ミュージアムワーキンググループ会議を4回開催して、各データベースの実務担当者・システム設計業者と情報の共有を図った。デジタル・ミュージアムの総データ件数は71,513件、2018年1月から9月までの総アクセス数は318,975件(同期間中の利用国の上位五ヶ国は、アメリカ、日本、フランス、ドイツ、イギリス)となっている。

学部教育での活用を念頭に置きながら、使い勝手の向上とより広く認知されるための方法について協議した。

デジタル人文学についての知見を深めるために、下記の通り外部講師を招いて研究会を1回開催した。

【講師】 桐原健真(金城学院大学)

【講演タイトル】「書誌目録と全文テキスト：
二つのデータベースの運用と展望」

【日時】2019年2月27日（水）、13:00～14:30

【場所】國學院大學AMC棟5階、会議室06

講師の桐原氏は吉田松陰の研究などで知られ、下記の2つのデータベースを構築、運用するなど、日本思想史学におけるデジタル・ヒューマニティーズを牽引している研究者である。

日本儒林叢書全文データベース

<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/jurin/>

日本思想史文献データベース検索

<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/dojih/>

（2）デジタル・ミュージアムの展開のための独自のコンテンツの構築

神道と日本宗教研究に関する日本語・英語のポータルサイトの設計について協議した。EOSの改良作業を進めた。国学プロジェクトと協力して「国学・神道関係人物研究情報データベース」を拡充した。旧日本文化研究所と研究開発推進機構の過去の催事情報をまとめ、写真や動画などの関連情報を集約し、整理した。

（3）宗教文化教育の教材研究の国際的展開

「宗教文化教育推進センター」と連携してオンライン教材の作成を進め、映画と世界遺産に関するデータベースの内容を拡充した。

宗教文化教育に関する研究会に関しては、國學院大學で4回、九州で1回開催し、宗教文化教育の実例について報告を受けて議論し、使用教材について検討した。九州での研究会（講演会）は、前述の科研費「日本宗教教育の国際的プラットフォーム構築のための総合的研究」と共催で下記の通り行われた。

【講演】井上順孝（國學院大學名誉教授）

【講演タイトル】揺り動かされる宗教への視

点 ―21世紀の宗教文化教育の課題

【日時】2019年3月2日（土）14:00～17:00
（講演）

【場所】福岡市博多区博多駅東1丁目16-14リ
ファレンス駅東ビル会議室V-3

【主催】國學院大學研究開発推進機構日本文
化研究所、科研費（基盤B）「日本宗教教
育の国際的プラットフォーム構築のため
の総合的研究」（課題番号：18H00615、
研究代表者：平藤喜久子）

翌3月3日は、九州大学の飯嶋秀治准教授
の案内のもと、福岡市内の宗教施設を調査し
た。調査先は、宮崎宮、福岡マスジド、聖福
寺、櫛田神社、キリスト教大名教会である。
福岡マスジドでは、日本人のムスリムの方
に話を伺う時間を取っていただき、日本人
ムスリムとしての生活について、貴重な情
報を得ることが出来た。

科研主催の研究会としては、下記が行われ
た。

【日時】2018年5月20日（日）13:00～17:30

【場所】國學院大學AMC棟5階 会議室06

【発表者】ヤニス・ガイタニディス（千葉大学）

【発表タイトル】「クリティカル日本学として
の日本宗教」

【コメンテーター】飯嶋秀治（九州大学）

【日時】2018年7月1日（日）13:00～18:00

【場所】國學院大學AMC棟5階、会議室06

【発表者・タイトル】

Saeko Yazaki (University of Glasgow)「イ
ギリスの大学における日本宗教の授業」

Fabio Rambelli (University of California,
Santa Barbara)「海外における神道史」

【コメンテーター】飯嶋秀治（九州大学）

上智大学モニュメンタニッポニカとの連携と
して、平藤がモニュメンタニッポニカ80周年記
念シンポジウムのなかで、ラウンドテーブル

The Present and Future of Japanese and Area Studiesに登壇し、日本文化研究所の歴史やデジタル・ミュージアムの紹介を行い、日本学の展開の教材の提供についても議論を行った。

具体的に教材として活用されるものとしては、『学生宗教意識調査総合分析』（2018年刊）の英語版となるCollege Students' Attitudes Toward Religion Survey General Analysisを刊行した。

10月には、下記の通り国際研究フォーラム“Religious Cultures in Asia: Mutual Transformations through Multiple Modernities”を開催した。

【日時】2018年10月20日（土）10：00～18：20

【場所】國學院大學AMC棟5階、会議室06

【基調講演】

Reinhard ZÖLLNER ラインハルト・ツェルナー（University of Bonn）

“Eejanaika and Religious Modernity in Japan”「ええじゃないかと日本の近代宗教」

【主催】國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所

今回の国際研究フォーラムは、国内外から報告者を募り、アジアの宗教文化について議論をするもので、学内外の若手研究者の英語での成果発信を促し、日本の宗教文化の研究の国際化を目指すものであった。

発表タイトル、発題者は次のとおりである。

○The Vision of Asia in Ōmoto's Ofudesaki
MIURA Takashi / University of Arizona

○The Inculturation of Tenrikyo in Postwar Taiwan

HUANG Yueh-Po / Academia Sinica

○Founding Myths of the Japanese State: The Changing Perception of China and its Influence on Early Modern Japanese Identity

David WEISS / Rikkyo University

○The Transfiguration of Karagokoro: the Reception of the Mito School Thought by National Learning in the Meiji Period

SAITO Kota / Kokugakuin University

○Activities of Kakehi Katsuhiko in Manchuria

NISHIDA Shoichi / JSPS

○Significance of Monuments to Religious Culture of Modern Japan

TAKASE Kohei / University of Tokyo

○Reconsidering the Relationship between Japanese Martial Arts and Religion: Case Study of Mt.Mitsumine and Kyokushin Karate

Mateja ZABJEK / University of Tsukuba

○The Worshipping of the Tu Di Gong in Japan: A Comparison with Vietnam

NGUYEN Thu Hang / Hanoi University of Science, VNU

○Islamic Debates on the Environment: An Examination of Religious Rationales in Contemporary Iran

ABE Satoshi / Nagasaki University

○When Japanese Buddhism and Chinese Folk Religion Meet in Hong Kong: Representation and Interpretation of Soka Gakkai in the Chinese Settings

NG Ka Shing / Nagasaki University

○Periodization for Mobilizing: Discursive Analysis to “the 4th Industrial Revolution” Discourse in Comparison with Religious Periodization in “Korean New Religions”
MOON Byeong-June / Seoul National University

若手の意欲的な発題がつづき、お互いに刺激を与え合うことができたと感じた。

国際研究フォーラムの翌日は、科研費による国際シンポジウム「日本文化としての宗教—海外の授業から—」が行われた。

【日時】2018年10月21日（日）13：00～18：00

【場所】 國學院大學AMC棟5階、会議室06

【発題者】

アラン・カミングス（ロンドン大学
SOAS、UK）

ワリード・ファルーク・イブラヒム（カイ
ロ大学日本研究センター、エジプト）

【コメンテーター】

飯嶋秀治（九州大学）

木村敏明（東北大学）

【司会】 平藤喜久子（國學院大學）

【使用言語】 日本語

【主催】 科研費（基盤B）「日本宗教教育の国
際的プラットフォーム構築のための総合
的研究」（課題番号：18H00615、研究代
表者：平藤喜久子）

【共催】 國學院大學研究開発推進機構日本文
化研究所

国際研究フォーラムの参加者の多くが、国
際シンポジウムにも参加し、前日に引き続い
て交流、討議が行われた。

3. 2019年度の実施計画

本プロジェクトは、2018年度で終了となっ
た。2019年度からは、新たなプロジェクトと
して「デジタル・ミュージアムの運営および
日本の宗教文化の研究と教材の国際発信」が
計画・実施されている。

主な内容は、2009年度に本格的に運用を開
始した「國學院大學デジタル・ミュージアム」
(<http://k-amc.kokugakuin.ac.jp/DM/>) の円
滑な運営をはかり、デジタル・ミュージアム
上で公開する独自コンテンツの作成を行うと
いうものである。なお、デジタル・ミュージ
アムについて、昨年度末段階で29データベ
ースを公開しており（本誌11号参照）、公開項
目の総数は71,513件である。また日本の宗教
文化について研究を進めながら、それを教授
するための教材も研究・作成し、あわせて国
際的な発信を進めていく。

まず、デジタル・ミュージアムの運営につ
いては、研究教育への活用を視野に入れなが
ら、研究開発推進機構の各機関と連携して推
進し、研究開発推進機構における研究成果や
各種のデータベース等についてのデジタル化
を進め、更に本学全体における研究成果発信
の一環として、学部・大学院で構築したデー
タベース等を横断的に公開することにも対応
する。

独自コンテンツの作成について、引き続き
21世紀COEプログラム関連事業として構築
したEncyclopedia of Shinto（『神道事典』の
英訳）の拡充を図る。また日本文化研究所が
蓄積してきた研究成果や学術資産についても
整理しながらデジタル化し、これらを主とし
てインターネットを通して国際的に発信して
いく。これと関連して、神道と日本の宗教文
化に関する国際的なポータルサイトの構築を
目指す。さらに、本学の研究資産の国際的活
用の向上のために、オンラインジャーナルを
刊行する予定としている。

日本の宗教文化の研究と教材の国際的発信
については、広く大学教育・宗教文化教育に
活用していただくための取り組みとして、ユー
ザーの利便性を考慮し、引き続きデジタル・ミ
ュージアムの機能の向上をはかる。研究資産を
教材として展開させていくにあたって、2011年
に宗教文化士制度の運営を目的として発足し
た「宗教文化教育推進センター」と連携して
いく。また、日本の宗教文化についての英語
教材を開発し、海外の研究者の利用を促進す
るような形で発信していく。この点について
は、これまで同様、「宗教文化教育推進セン
ター」、科研「日本宗教教育の国際的プラッ
トフォーム構築のための総合的研究」
(18H00615研究代表 平藤喜久子) との連携
によるオンライン教材の作成、発信を進めて
いく予定である。